

日刊建設工業新聞

12月18日(金)
第20044号

記事 電話03-3433-7161 mail-ed@decn.co.jp 購読 電話03-3433-7152 mail-sa@decn.co.jp 広告 電話03-3433-7154 eigyo@decn.co.jp
発行所 日刊建設工業新聞社 〒105-0021 東京都港区東新橋2-2-10 電話03(3433)7151 https://www.decn.co.jp/ ©日刊建設工業新聞社 2020

2019年10月の社長就任から1年2カ月余りが経過した。先人たちが築いてきた基盤を継承しつつ、難局に対処するため時代に即した変化を柔軟に取り入れる必要があるとみる。21年4月に迎える創業100周年。新たな道を切り開く開拓者の精神で先を見据えて手を打っていく。

◇ 経営方針は。

「全社一丸となってコロナ禍を乗り越えていく。現在は手持ち工事を粛々と頑張っている。建設投資は新型コロナウイルスの影響で先送りされる懸念がある。競争が厳しくなっていくだろうが、倉庫や物流施設、巣ごもり需要への対応で業績を伸ばしている分野もあるため、アンテナを高くして受注にまい進したい。防災・減災、国土強靱化やインフラの維持補修、建物の耐震補強などの分野も歩みを進めたい」

「グループ会社では家庭系生ごみや事業系食品廃棄物な



四文字

地元負担最大133億円に
...

開拓者の精神でまい進

株木建設社長 株木 康吉氏に聞く



2010年早稲田大学理工学部卒、東京電力入社。14年株木建設入社。18年執行役員、19年取締役兼執行役員。東京都出身、33歳。「初心忘るべからず」の姿勢で臨む。ゴルフを愛した前社長とのプレーの思い出を「マネーに敵しかつたが成長を喜んでくれた。経営にも通ずるものあり」と振り返る。

「AI」や自動化が進化したにも寄与していきたい。先を見据えてZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)にもチャレンジしたい」

「働き方改革にどう取り組んでいくのか。ICT(情報通信技術)やBIM/CIMを使い、効率を高めたい。上手にデジタル技術を使い、働き方改革を推進する。『KCS(カブキ・コンストラクション・システム)改善活動』として現場の見える化に取り組んでもらう。蓄積している過去の事例もより有効活用していきたい。将来的にはDX(デジタルトランスフォーメーション)との融合も考えていきたい」

「ベテラン、中堅と若手を融合させながら技術の底上げをしていき、お互いに刺激を与えたい。これからも社会に貢献できるよう、しっかりと次世代につないでいく」。

